

さぬき水田営農だより

発行：香川県水田農業振興協議会 問合せ先：香川県農業協同組合農産課 TEL:087-818-4104
香川県農政水産部農業生産流通課 TEL:087-832-3418

香川県の米販売情勢

銘柄別販売実績

平成17年12月31日現在 (単位：トン、%)

銘柄	17年産			16年産			前年対比		
	県内 ①	県外 ②	計 ③	県内 ④	県外 ⑤	計 ⑥	県内 ①÷④	県外 ②÷⑤	計 ③÷⑥
コシヒカリ	3,164	179	3,343	3,606	1,133	4,739	87.7	3.8	70.5
ヒノヒカリ	1,033	1,364	2,397	953	698	1,651	108.4	195.4	145.2
はえぬき	541	22	563	386	49	435	140.2	44.9	129.4
オオセト	352	798	1,150	89	653	742	395.5	122.2	155.0
その他	64	3	67	157	6	163	40.8	50.0	41.1
もち	69	-	69	43	-	43	160.5	-	160.5
合計	5,223	2,366	7,589	5,234	2,539	7,773	99.8	93.2	97.6

- 1) 「コシヒカリ」、「はえぬき」は、17年産米から県内需要中心の販売に転換したために、県外での販売が低調となっている。
- 2) 「はえぬき」は、県内販売が好調に推移している。
- 3) 「ヒノヒカリ」は、県内・県外とも販売が好調で、特に京阪神地域など県外での販売進捗が早まっています。
- 4) 「オオセト」は、酒造メーカーの持越し在庫が少ないことに加え、一時期の焼酎ブームに陰りが見え始めたことから、販売進捗が進んだことが考えられます。

平成18年産米の生産販売方針

「売れる米づくり」を基本に需要に即した計画的生産を目指します。

良食味米であり、需要の安定・拡大が見込める「コシヒカリ」「はえぬき」「ヒノヒカリ」の生産を重点化します。また、酒造用米品種の「オオセト」の需要に応じた作付面積の確保を計ります。

平成18年産米の品種別生産計画

(単位：ha)

品種	17年産	18年産目標
コシヒカリ	5,600	5,900
はえぬき	1,400	1,400
ヒノヒカリ	6,700	6,900
オオセト	900	900
その他うるち	500	400
もち	300	200
計	15,400	15,700

コシヒカリ 生産拡大

堅調な県内消費を背景に、さぬきエコ農産物表示認証制度に基づく「特別栽培米」と県内スーパー中心の単品販売を実施

はえぬき 生産確保

県内スーパー中心の単品販売とコシヒカリとのブレンド米「なかよしこよし米」の販売により、県内消費を拡大

ヒノヒカリ 生産の維持

県外消費を拡大するため、京阪神地域の11店舗で組織する「さぬき米夢クラブ」などで香川県産の消費定着を図る

オオセト 生産量の確保

需要に応じた計画生産を基本に、県内外の酒造メーカーの要望に即した契約的販売を目指す

安全・安心な米づくりを目指しましょう

良いものをつくるだけでは消費者の信頼を確保できない時代になっています。安全な農産物をつくり消費者に「安心」を届けるためにも、栽培履歴を記帳し情報を開示していくことが「安全・安心な米づくり」の基本となります。

また、米の流通業界では精米段階での異品種混入の防止対策を徹底しています。香川県産米のブランド化を図るため、生産段階での異品種混入の防止を徹底しましょう。

栽培履歴の記帳

栽培履歴書に必要事項を記入します。

必要事項は、品種・播種日・移植日・定植日・収穫予定日・防除薬剤名と処理日などです。

米の出荷前に栽培履歴書を提出します。

JAグループ香川では、記帳の信頼性を担保するために残留農薬分析を実施しています。

異品種混入の防止

種子更新を実施し、異品種の混入を防止します。

コンバイン・乾燥機の清掃を徹底します。

検査時又はカントリーエレベーター搬入時に品種を確認します。

JAグループ香川では、銘柄の信頼性を担保するためにDNA鑑定（遺伝子情報による品種鑑定）を実施しています。

生産者総ての皆さんが栽培履歴を記帳し異品種混入防止を徹底することで、はじめて消費者からの安全と信頼が生まれます。

「JA米」をご存知ですか？

JAが取り扱う（集荷・販売）お米であることは、間違いありません。しかし、ただ、それだけではありません。「JA米」は、

- ①種子更新により銘柄確認された米
- ②生産履歴の記帳報告により農薬等の使用基準を遵守し栽培されたことを確認した安全・安心を保証する米。
- ③農産物検査（年産・産地・銘柄の確認と品質の確認）を受検した米

の以上3項目をクリアした信頼のお米を意味します。

また「JA米」は、全国のJAが統一したルールに基づき3項目の要件を確認したお米であり、別名「確認米」とも表記されます。

17年産米では、「JA米」の取り扱いが、全国ベースで出荷契約された米の67%（出荷契約数量428万トン、内「JA米」285万トン）を占めています。「JA米」に準じた米を加えれば約70%が「確認米」というわけです。

なお、こうした生産農家の取組みや点検確認作業に鑑み、「JA米」とそれ以外の「一般米」とで、販売価格の格差を拡大することが全国団体（全農）で検討されつつあります。

本県も、18年度より香川県主要農作物種子協会と連携し、籾種子の安定供給体制や栽培履歴の100%報告・確認体制の整備に取り組み、19年産米より「JA香川米（JA米の香川型）」の取扱いを開始します。

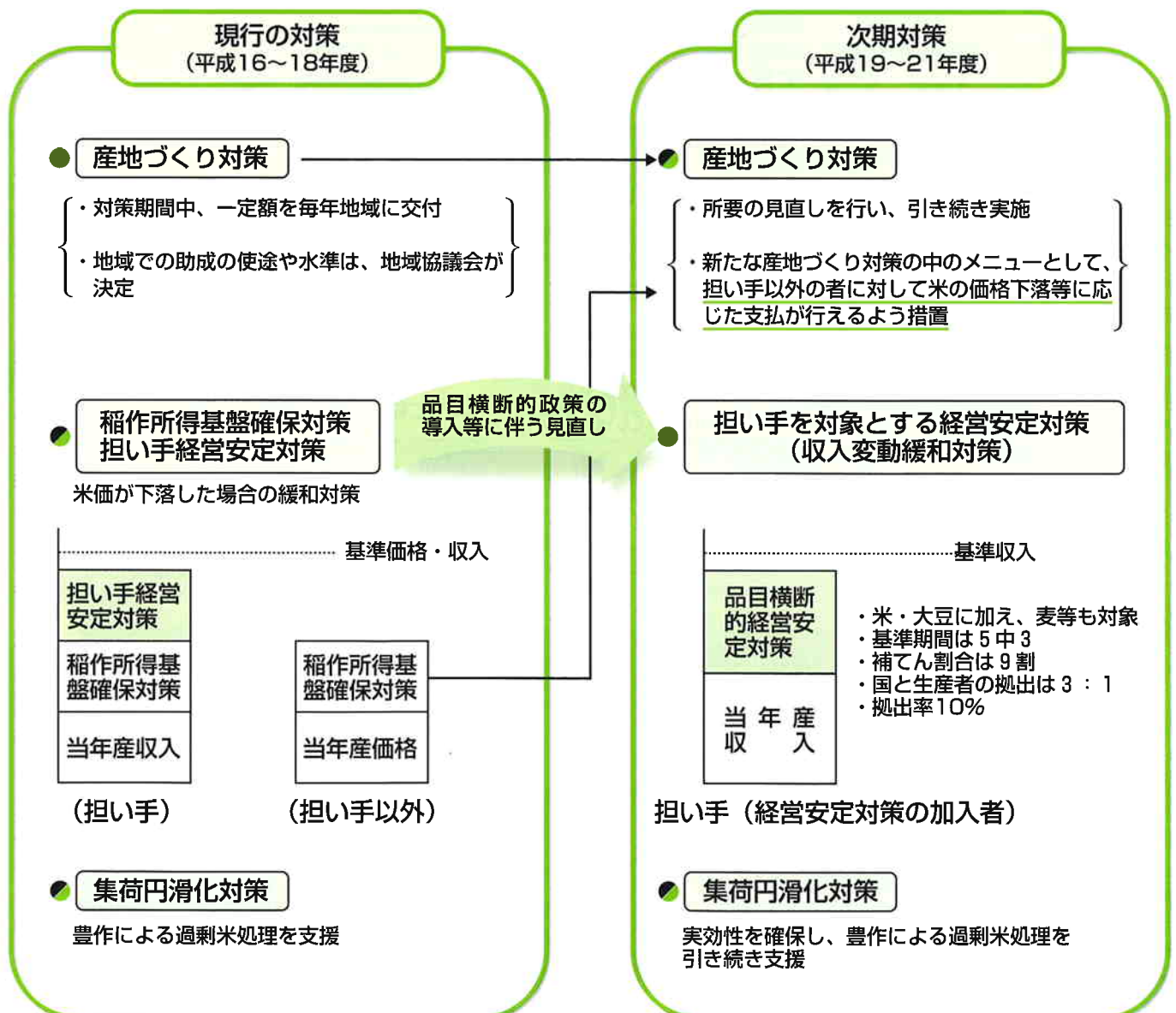
近年、生産者と消費者との信頼に基づく直接取引が増加していますが、JAグループ香川は、生産者と消費者の信頼を「JA香川米」で結びます。

平成19年度からの米政策改革推進対策

米については、平成14年12月に平成22年度を目標とする「米政策改革大綱」を決定し、需要に即応した米づくりを通じて水田農業経営の安定と発展を図るため、需給調整対策、流通制度、関連施策等の改革に取り組んできたところです。

現在、平成16年度から18年度までの3ヶ年の対策として、産地づくり対策、稲作所得基盤確保対策、担い手経営安定対策及び集荷円滑化対策が実施されていますが、平成19年産から米も含めた品目横断的経営安定対策が導入されることを踏まえて、米政策改革大綱の趣旨に沿った見直しが行われます。

品目横断的経営安定対策の導入等に伴う米政策改革推進対策の見直しの考え方



1月下旬～2月の麦の栽培管理

今年の麦については、播種期に週末ごとに降雨があったものの、概ね天候に恵まれ、11月中に7割程度、12月に入って3割程度が播種されています。11月に播種された麦は、概ね順調な生育をしていましたが、その後の低温により生育が遅れがみられています。12月に播種された麦については、出芽が遅れ生育も遅れています。

それぞれの生育状況に応じた栽培管理を行い、品質のよい麦をつくりましょう。

追肥の目安(砂質～壤質田の場合)

播種時期	2月初旬の生育状況のタイプ	施肥時期と施肥量の目安(10aあたり) アラジン403・高度化成402・とびっこ1号のいずれか
はだか麦	11月中～下旬	黄化がみられる → 2回に分けて施肥 (1月下旬に10kg+2月下旬に10kg)
		平年並(本葉6～7枚) 又は生育が遅れている → 2月下旬～3月初旬に20kg
	12月	生育が遅れ、分けつも少ない → 3～4葉期に10～15kg
小麦	11月上旬	肥切れがみられる → 1月下旬～2月上旬までに20kg
	11月中～下旬	葉色が薄くなっている → 2月上旬～中旬に20kg
		平年並(本葉6～7枚) 又は生育が遅れている → 2月上旬～3月初旬に20kg
	12月	生育が遅れ、分けつも少ない → 3～4葉期に10～15kg (過剰施肥は熟期が遅れるので注意)

※粘質田では、上記の1.25倍程度の施肥量にする。



イチバンボシ 本葉6～7枚の様子



さめきの夢2000 本葉6～7枚の様子